

9月23日 水

「上善水のごとし」という老子の言葉がある。老子は水のように生きることを理想とした。水はあらゆるものを包み込んで、人が嫌がる低きにつく。しかし、一方で頑ななものを突き動かす力を持っている。

高校で老子について学んだとき、私も人間として水のようにありたいと強く思った。地味で、内気で、小心者の自分に一番似つかわしい生き方だと思った。

「みずき」という名の少女が登場する映画があった。「水木」という木は、枝を折ると水がしたたり落ちる。旅人の渴いた喉を癒やすことから「旅人の木」とも呼ばれている。困った人を助けるような人になって欲しいと願い、父は娘を「みずき」と名付けた……。映画のその場面が、なぜだかずっと心に残っていた。自分に娘ができたら、「みずき」と名付けよう。いつの頃からか、そう心に決めていた。

家の近くに花水木の並木があった。6月頃、妊娠した妻の運動不足解消のため、よくその街路を散歩した。満開の花の下を「この花のように可憐で、明るくて、人の為に尽くしてくれるような、そんな娘に育てて欲しい。そして、水のように柔軟に、けれども常に高みを目指す、そんな人になって欲しい」、まだ男か女かもわからないのに、そう考えながら歩いていた。数ヶ月後、無事女の子を授かった。姓名判断の本を読みあさり、私の思いと名字との画数バランスを考慮して、吉数となる『水貴』の字を選んで名付けた。

親の心子知らずで、今のところ明るいだけが取り柄のお転婆娘だけれど、せめて自分の名前を記すごとに私の思いを感じてくれればと思う。

